※令和４年度以降入学生用

学校番号	C4001

令和８年度　音楽科

科目	鑑賞演習Ａ	単位数	1
使用教科書	なし		
副教材等	大人の音楽史入門　改訂版　ＣＤ付き（YAMAHA）		
レポート	３通		
必要出席回数	４回		
テスト	１回		

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

- 西洋音楽の歴史とともに、その時代の作曲家の曲を鑑賞していきます。

２　学習の到達目標

（1 ）　曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに，創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。
（2 ）　自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや，音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。
（3 ）　主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み，生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに，感性を高め，音楽文化に親しみ，音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	声や楽器の音色の特徴と表現上の効果との関わりを感じ取ったり、楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者及び演奏者による表現の特徴を理解したりして、楽曲や演奏を解釈している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自己のイメージをもってどのように表すかについて表現意図をもったり 、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	声や楽器の音色の特徴との表現上の効果との関わり、楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者及び演奏者による表現の特徴などに関心をもち、鑑賞の学習に主体的に取り組もうとしている。

- 学習指導要領(第１章第２款の５)に則り，ラジオ・テレビ放送その他の多様なメディアを利用して行う学習による面接指導時間数の免除(面接指導の時間数のうち 10 分の６以内の時間数を免除)の制度を活用する。
- 学期末に５段階で評価する。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	古代～古典派の時代の音楽	≪古代～中世～ルネサンス時代≫ ジョスカン・デプレ パレストリーナ ≪バロック時代≫ ヴィヴァルディ ヘンデル バッハ ≪古典派の時代≫ ハイドン モーツァルト ベートーヴェン	a:声や楽器の音色の特徴と表現上の効果との関わり、楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲者および演奏者による表現の特徴を理解して、音楽に対する理解を深め、よさや美しさを創造的に味わっている。 b:音楽を形作っている要素やそれらの関連を知覚、感受しながら聴いている。 a.　c:鑑賞する学習に主体的に取り組んでいる。	レポート テスト	レポート テスト	レポート スクーリング

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度